

## 助成年度：平成 10 年度

[所属] 京都大学 霊長類研究所  
[役職] 助手  
[氏名] 清水 慶子 (他計 2 名)

[課題]

### 環境ホルモンが霊長類の生殖内分泌に及ぼす影響

[内容]

本研究では、遺伝学的にヒトに最も近いサルを用いて、内分泌系攪乱物質がサル胎児に及ぼす影響について調べた。

実験に用いた妊娠カニクイザル 3 頭のうち、1 頭には高用量のエチニルエストラジオールを経口投与したところ、妊娠が中断し、流産に至ったが、外奇形、胎児生育状態の異常は見られなかった。他の 2 頭には、妊娠初期に低用量のエチニルエストラジオールを経口投与した。1 頭は現在、妊娠継続中であるが、1 頭は出産に至った。得られた児は、妊娠期間はほぼ正常であるが、出生時体重が軽かった。また、外奇形は観察されなかった。しかし、その後現在まで、母乳にて順調に育っている。行動学的にも現在までは問題はない。しかし、妊娠マウスに DES を摂取させたところ、オスの子供の前立腺は低濃度では異常に発達し、高濃度では正常な発達を抑制した。中間の濃度で暴露されたオスでは、対照群と有意な差は見られなかったという報告があり、今回用いたエチニルエストラジオールは、低用量といえども、かなり量的には多いので、DES の濃度と同様な反応パターンを示すことも考えられ、今後、さらに少ない量で調べる必要がある。